



2018年12月3日
公益財団法人イオン環境財団
イオン琉球株式会社

さくらの名所づくりを目指して
12/8(土)「沖縄県 宜野湾市さくら植樹」開催
300名のボランティアの皆さまとさくら1,000本を植樹

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は
12月8日（土）、嘉数高台公園にて「沖縄県 宜野湾市さくら植樹」を行います。

宜野湾市の自然林を利用してつくられた嘉数高台公園は、市民の方々の憩いの場として
利用されています。一方で、同地が沖縄戦の激戦地であったことから、公園内には戦跡が
点在し、慰霊塔も建てられており、平和学習の場にもなっています。

今回の植樹では、同公園をさくらの名所とすることで、より多くの方々が訪れ、平和を
願う場としていっそう親しまれるよう、地域のボランティア300名の皆さまと1,000
本のさくらを植えます。

なお、本植樹は、2019年秋に沖縄県で開催される「第43回全国育樹祭」に向けた
記念行事のひとつとして認定されており、植樹を通じ、継続して森を守り、育てることの
大切さを参加者の方々と共有します。

当財団は、今後もいのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、植樹活動をはじめ
とする環境保全活動を積極的に推進してまいります。

記

日 時： 2018年12月8日（土）10:00～11:00
場 所： 沖縄県宜野湾市嘉数1-5 宜野湾市嘉数高台公園
参加人数： 300名
本 数： 1,000本
樹 種： ヒカンザクラ
面 積： 0.35ha
主 催： 宜野湾市・公益財団法人イオン環境財団
協 力： 一般社団法人宜野湾市はごろも緑花会・イオン琉球株式会社
後 援： 沖縄県・沖縄県全島緑化県民運動推進会議・全国育樹祭後援実行委員会
出席者： 沖縄県 知事 玉城 デニー 様
（予定） 沖縄県宜野湾市 市長 松川 正則 様
公益財団法人イオン環境財団 理事長 岡田卓也
イオン琉球株式会社 代表取締役社長 佐方圭二

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,177万本（2018年10月末時点）を超えています。

（イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

■植樹事業

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的として、日本はもとよりアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。本年度は、国内では福島県南相馬市、三重県松阪市、宮城県亶理町、宮崎県綾町、大分県竹田市、千葉県千葉市にて、海外では中国・北京市密雲、ミャンマー・ヤンゴン、インドネシア・ジャカルタにおいて植樹活動を実施しました。

【沖縄県における植樹活動】

2007年～2009年「沖縄植樹」

イオン琉球株式会社（旧 琉球ジャスコ株式会社）30周年記念事業として、「那覇市最終処分場跡」に同社とともに植樹を実施しました。戦前は緑豊かな森であった同地が再び地域の方々の憩いの場となるよう、3年間にわたり3,500人のボランティアの皆さまとともに、30,000本の植樹を実施しました。



2008年 沖縄植樹（那覇市）

2017年「沖縄県 糸満市植樹」

糸満市の平和祈念公園が緑に親しみ緑に憩い、緑を学ぶ場、そして平和への願いを新たにする場としていっそう親しまれることを願い、ガジュマルをはじめ南国独特の豊かな植生をいかした12種類の苗木、合計5,300本を500名のボランティアの皆さまとともに平和への祈りをこめて植樹しました。



2017年 沖縄県 糸満市植樹

■助成事業

〔環境活動助成〕

1991年より26年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行っています。2017年度は、植樹、砂漠化防止、里地・里山・里海の保全、湖沼・河川の浄化、野生生物の保護、絶滅危惧生物の保護などを行う民間団体102件に、9,500万円の助成を行いました。累計では2,744件、総額25億9,200万円の助成を行っています。2018年も継続して環境活動への助成を実施します。

■連携事業

〔生物多様性アワード〕

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞」（国際賞）と「生物多様性日本アワード」（国内賞）の2つのアワードを創設。隔年で開催し、顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2017年度は第5回「生物多様性日本アワード」、2018年度は第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施しました。



第5回「生物多様性みどり賞」受賞式

[大学との連携]

東京大学 I R 3 S イオン未来の地球フォーラム

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行案を議論し、講演と対話型パネルディスカッションにおいて理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラムを開催しています。2019年2月2日(土)には、東京大学安田講堂にて、「第3回イオン未来の地球フォーラム」の実施を予定しています。



第2回イオン未来の地球フォーラム(東京大学)

■環境教育事業

[アジア学生交流環境フォーラム]

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム」を実施しています。2018年度は、「熱帯雨林からの贈りもの」をテーマに、王立プノンペン大学(カンボジア)、清華大学(中国)、インドネシア大学(インドネシア)、早稲田大学(日本)、高麗大学校(韓国)、マラヤ大学(マレーシア)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)、チェラロンコン大学(タイ)、ヤンゴン経済大学(ミャンマー)の9ヶ国合計72名の学生が参加し、8月2日~5日の期間、マレーシア・クアラルンプールで開催しました。



2018年 マラヤ大学

[沖縄県における公益財団法人イオン1%クラブの活動]

[イオンチアーズクラブ全国大会]

全国各地で実施した「イオンチアーズクラブサミット(年間の活動報告会)」で選ばれた50クラブが、各クラブの学習成果を発表し合い、自然を学ぶ「イオンチアーズクラブ全国大会」を、毎年沖縄県と北海道で実施しています。その土地ならではの体験プログラムを通じて、子どもたちの新たな気づき(日本の自然の多様性、自然のめぐみへの感謝など)、環境問題への関心を育む場とすることなどを目的としています。



2018年 沖縄大会

[高校生太平洋・島サミットの支援]

太平洋の島国15ヶ国の首相と大統領が集まり意見交換を行うため、2012年5月に名護市で開催された「第6回太平洋・島サミット」にあわせ、沖縄県の代表的「エコアイランド」である宮古島では、各参加国の高校生30名と日本の高校生32名が一堂に集い、環境をテーマにディスカッションし、相互理解や友好促進を行う「高校生太平洋・島サミット」が開催されました。同財団はこのサミットを特別協賛として支援しました。



2012年 高校生太平洋・島サミット in 宮古島